

熊本地震復興支援緊急集会

—産官学の連携によるランドスケープ再生を通じた復興に向けて—

2016年5月29日(日)

九州支部・学術委員会

課題を踏まえた今後の対応における視点

①市街地・集落景観の再生に求められる視点

②復旧・復興プロセスでの都市内オープンスペースの利活用

③共助による農地等復旧支援活動の現状と課題

④阿蘇地域の環境資源の再生に求められる視点

⑤ランドスケープ遺産の取り組みを踏まえた産官学の連携による復興にむけて

熊本地震復興支援緊急集会

—産官学の連携によるランドスケープ再生を通じた復興に向けて—

市街地・集落景観の再生に求められる視点

滋賀県立大学環境科学部 村上修一



造園学会 九州支部
造園学会 学術委員会

益城町総合運動公園



造園学会 九州支部
造園学会 学術委員会

益城町総合運動公園

視点1： 多様な避難行動

避難場所，避難所，自宅，知り合いの家，
公園，駐車場，テント，車，，，

時系列上の違い

予定調和的シミュレーションでは予測困難

視点1： 多様な避難行動

避難行動について個別網羅的な調査必要

- ・選択理由や時系列上の推移を把握
- ・オープンスペースの利用を検証



非常時の受容性を高める空間デザイン
使えるオープンスペースを増やす方策



造園学会 九州支部
造園学会 学術委員会

平成中央公園(熊本市)

視点2： 都市公園の利活用

発災直後より住民の自主的な利活用

一時避難場所として、だけでなく、
避難所としても利用

通常の公園利用と避難生活が混在

視点2： 都市公園の利活用

発災直後から復興期に至るまで、
都市公園の空間や応災施設が
どのように機能したのか検証が必要



都市公園の応災力向上のための知見
再生整備や運営管理に活用



造園学会 九州支部
造園学会 学術委員

熊本城

視点3： 都市のシンボルの被災

熊本城 観光入込数160万人/年(2014年)

被害は建造物，地盤にも

修復は長期

景観の本質は保たれている

被災後の城郭を見に来る来訪者

視点3： 都市のシンボルの被災

文化財や景観の修復作業の支援

修復過程にあわせた熊本城公園の
運用のあり方検討必要

- 破損個所や修復の情報伝達デザイン
- 見学や散策ルート計画
- 安全な動線の確保と整備
- 市民参加型復興プロセスの企画や運営



造園学会 九州支部
造園学会 学術委員会

被災した家屋（益城町）



被災した瓦屋根の家屋（熊本市）

視点4： 景観の変容

全壊1,900棟，半壊7,600棟，一部損壊

45,600棟（熊本市，5/23速報値）

被災の程度が敷地ごとに異なる

木造家屋の柱，壁，基礎，瓦屋根の被害

視点4： 景観の変容

被災地域の景観や構成要素の状況把握

新築や改修の景観に対する影響の検証

風景イメージの把握と共有

今後の景観形成のあり方についての検討



崩壊したブロック塀

(撮影者: 村上修一)



街路上の災害ゴミ

日経ビジネスオンライン
(<http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/report/15/110879/051000337/?rt=nocnt>)より転載



視点5： 景観を支えるしくみの変容

被災後の対応に地域差

- ・必要物資の調達やゴミの収集
- ・自前で臨機応変に対応した自治会

視点5： 景観を支えるしくみの変容

顕著な動きをした自治会に聴き取り調査

発災以降の動きを時系列上で整理



今後の自主防災組織等の活動に活かす

更新過程での自治機能の存続



造園学会 九州支部
造園学会 学術委員会

益城町



造園学会 九州支部
造園学会 学術委員会

益城町

視点6： 被災程度の差

同じ市街地でも場所による被災程度の差

個々の生活の中で個別に復興が進む

視点6： 被災程度の差

地形や地質など土地条件と被災程度との
関係について検証が必要

縮減社会の文脈において、地歴、地形、断
層との位置関係などをふまえた土地
利用規制についての検討

復旧・復興プロセスでの都市内オープンスペースの利活用： 海外事例との比較を踏まえて

筑波大学生命環境系
新保 奈穂美

熊本地震・カンタベリー地震（2010/2011）

オープンスペースの利活用における共通点

① 緊急時 恒久的なオープンスペースの必要性

- 広い、芝生のみの開けた公園・広場への避難

② 復興過程 点在する暫定的なオープンスペースの発生可能性

- 住宅地、予想される復興の進度のばらつき

③ 常時 ストレスを緩和できるオープンスペースの必要性

- 避難所の状況
- 予期できない今後への不安

参考：クライストチャーチ被害の状況 (Stuff.co.nz <http://www.stuff.co.nz/national/christchurch-earthquake/photos/>)



クライストチャーチの事例を通じて、ヒントを得る

①緊急時 → 恒久的なオープンスペースの有用性



Latimer Square



Hagley Park
(フラワーショー用テント)

熊本の場合

→ 都市公園（街区公園など）
・学校の校庭

2015/11/4

液状化
Red Zone
(居住不可区域)

Hagley Park

Cathedral
Square

Latimer Square

倒壊

0 300m



Image © 2016 DigitalGlobe
Image © 2016 CNES / Astrium

Google earth

画像取得日: 2015/11/4 43° 31'48.33" S 172° 33'06.42" E 標高 0 m 高度 439 km

2009

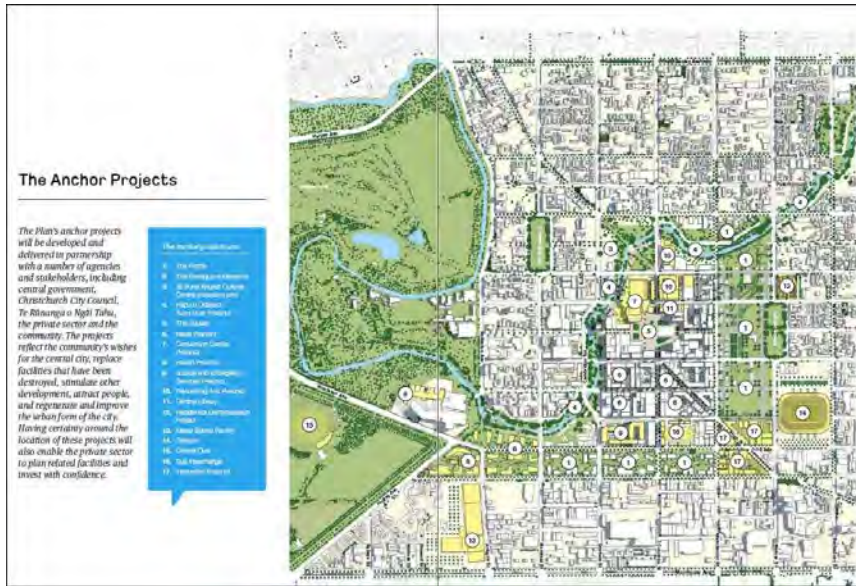
EQ

2012

2015



②復興過程 様々な、予期できない事情の絡み合い 思うように進まない



クライストチャーチ

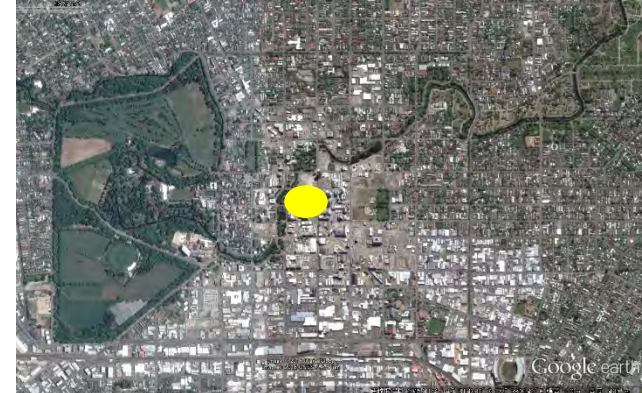
- マンパワー不足
- 倒壊建築に対し保険金支払いの遅れ
 - 保険会社が予想していなかった規模の地震
 - ゾーニング調査の進行具合
 - ✓ 中心市街地の再開発の遅れ
 - ✓ Red Zoneにおける住宅地撤退・移転の遅れ

熊本（予測含む）

- 高齢化、ボランティア不足
- 罹災証明書の発行、支援金支払いの遅れ、建て替えに足りない支援金額
 - 調査の遅れ、基準の難しさ、財源
 - ✓ 住宅復旧の遅れ

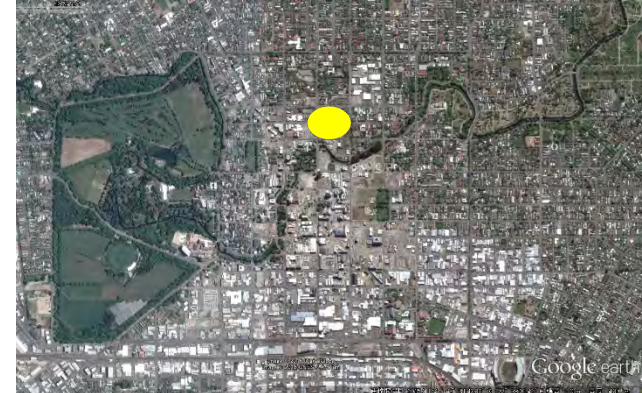
→ 暫定的なオープンスペースの活用（土地活用、まちの活力創出）

- ・ ショッピングモール (Re:START)
個人経営者によるプロジェクト
2014年に一度移転



→ 復興が進まない商業地区での
土地活用、にぎわいの創出
ショッピングセンター・
公共施設の土地など
比較的大規模な土地
(グランメッセ?)

- 農場 (Cultivate, Agropolis)
20～30代中心の有志による団体
野菜は飲食店へ出荷も

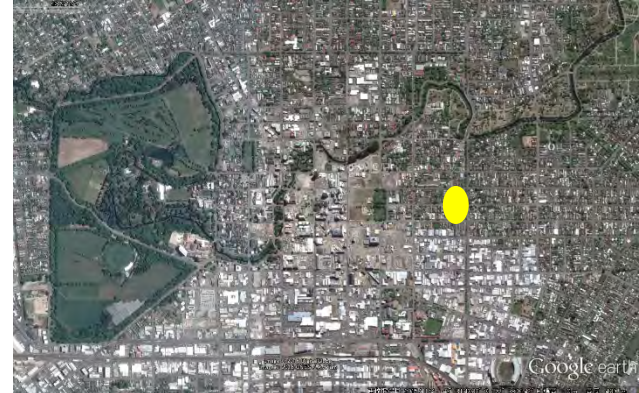


→ 建築用地を担保しつつ
土地活用
住宅地など

※Agropolisは2016年2月に
終了（移転？）



- 花壇・菜園（greening the rubble他）
慈善受託団体（charitable trust）



→ 復旧・復興まで、空き地を殺伐とさせない空間
すぐに建て替えられない住宅・商店の土地など
比較的小規模の土地

- シェアの小棚

(Sumner Food Swap

図書館・コミュニティセンター跡地)

→ 都市空間における互助のありかた
市街地での助け合い



- コンテナ：Transitional Cityとしての
クライストチャーチ情報発信のプラットフォーム
(自治体？)



→ 観光客への発信
復興と未来に向かう熊本のイメージ



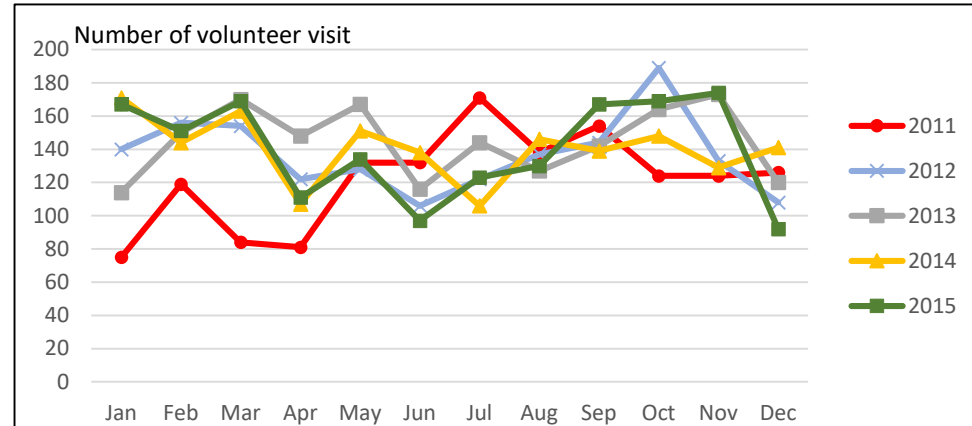
③常時 安堵できる場の重要性
→半恒久的なオープンスペース
(コミュニティガーデン)

土地は市所有 住民が作り上げ、維持

「共通の大変な経験を仲間と話すことで解放された」

「地震前も今もここでやることは変わらない」

「家に帰ればやることだらけでも、ここに来て忘れられる」



→ 避難所になる

学校・公共施設にも

仲間に会える空間

植物と触れて元気をもらう

おいしい食べ物を得る

※まちのシンボルとオープンスペース
大聖堂（修復断念、解体決定）



2015（新保撮影）

2006



→ 熊本城の今後
復興のシンボル
住民に愛される空間



クライストチャーチ市の大地震 概要

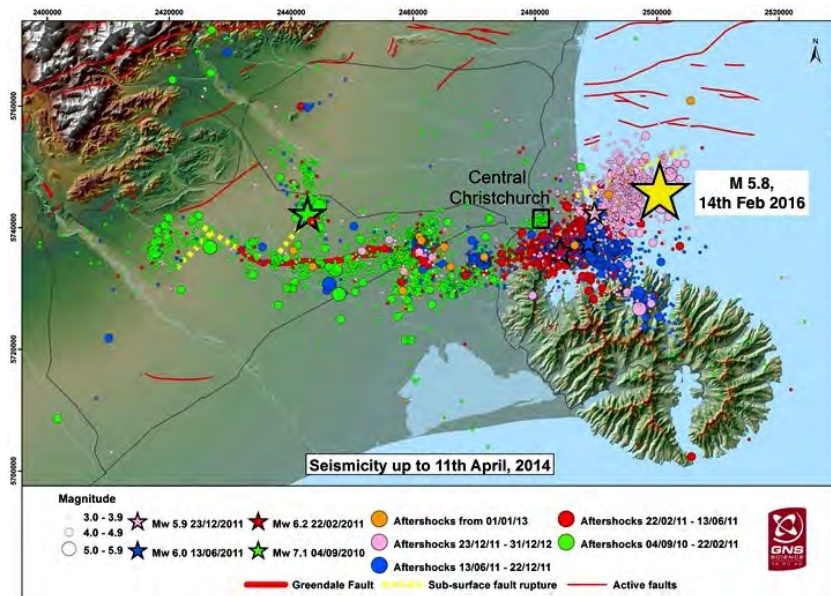
カンタベリー地震 (2010) 2010年9月3日 Mw 7.0
震央 クライストチャーチの西45km

カンタベリー地震 (2011) 2011年2月22日 Mw 6.1
震央 クライストチャーチ近郊

犠牲者数 182名
(出身国 NZ98名、日本28名、中国23名)

新保滞在期間
2015年11月4日 - 2016年2月28日

GNS Science
GeoNet.nz



2016年4月23日、九州支部の被災地視察で考えられたこと

視点1

観光ツーリズムと関連付けた熊本・阿蘇地域の再興

視点2

公共空間の改善と相互のつながり、総合的な再生

視点3

集落地域の生活再建

西原村の公民館倒壊
農村部の地縁の再生
農的生活の再生

視点4

文化的景観の再認識、有事における意義

視点5

まちづくりから造園緑化技術までの、幅広い領域分野の一体的体制構築

視点6

避難場所や防災拠点として都市公園等の機能が十分活かされたか



黒川温泉でお湯
が出なくなった
露天風呂



撮影日時：2016年4月23日 撮影者：徳永哲



益城町妙見川の護岸崩壊
現況復旧にこだわらない河川の再生

平成24-27年度 中山間地水害後の農林地復旧支援モデルに関する研究



九州大学 芸術工学研究院 環境デザイン部門 ランドスケープ・社会環境デザイン講座

- 農地は農家に取り生活を支える基盤
換金作物・自家用食料生産、健康、地域の支え
 - 災害後の復旧は国、市の補助事業で実施。
補助事業でカバーできない内容は多面的交付金の運用で(熊本県)
- ↓
- 家屋、農地、水路の多重被害、避難生活に追われ
営農する時間が不足
 - 復旧工事は道路・河川・橋が優先。農地・農業用施設
の復旧は数年かかる。制度の範囲は限られる。
 - 高齢の営農者が多く、自己負担金、復旧までの
生活費など、待てない農家が少なくない
 - 生産基盤なので、生活支援を旨とする社会福祉協議
会の災害ボラは支援しない。ボラのアクセスが無い。

農村のコミュニティ・レジリエンスを高めるには
早い農的生活の復旧が要、**共助の支援は？**

ランドスケープ分野の意義は、平時の里地・里山保全、都市・農村交流活動が
災害時のボランティア活動、景観、地域、生活、産業の復興の役に立つ

平成24年7月九州北部豪雨時の八女市・うきは市の共助団体の農地復旧支援活動

I. 生活等支援活動

- ・ 避難所運営サポート
- ・ 自治会、行政の連絡調整支援
- ・ 家屋の土砂だし、片付け
- ・ 小屋・家屋撤去



元小学校校舎 えがおの森(一次避難所、山村塾事務局)



家屋の土砂撤去



2012年7月22日のボランティア

II. 農地復旧等の支援

- ・ 地域内での復旧作業
- ・ 側溝、暗渠、田の水路の土砂の除去
- ・ 田・茶畑等の土石等の除去、整地、除草
- ・ 公共施設(きのこ村)の土砂の片付け
- ・ 石垣・土羽の復旧



水路の復旧



田畑の石等の除去



茶畑の整地



うきは市 棚田の石積み

III. 農業等支援

- ・ 道路の草刈
- ・ 稲刈り支援 (機械作業困難)
- ・ 蕎麦まき
- ・ 道路、登山道整備
- ・ 茶園の剪定



手刈りによる稲刈り支援



八女市星野村 彼岸花植栽

IV. 地域活性

- ・ 笠原まつりの支援
- ・ 花公園の除草、お祭り準備
- ・ 蕎麦の収穫、炭焼き体験
- ・ 笑おう元気会



八女市黒木町笠原まつりだっでん祭

3地域での延べ日数:322日、延べ人数:9951名 (2012年7月～2014年3月、21ヶ月)



災害発生→農地・農業用施設の被害

平 時	緊急対応～避難期(～1ヶ月)	簡易復旧期(～翌年の春)	復旧継続期(翌年の春～)
-----	----------------	--------------	--------------

自
助

【互助・共助活動への参加】
道具、装備を備え、互助・共助活動に参加

互
助

【互助活動の継続、共助連携】
地域の出事の適正化
ボラ活動支援員を配置、共助連携活動を支援

公
助

【農村デザインセンター設置】
参加者・団体間の連携・交流
規範、情報、人材、道具、装備、施設等の仕組みを整え、共助組織を形成・運営

共
助

ボラ活動支援員育成(土地勘、各世帯に通じた人材育成)
ニーズ調査と保全活動展開
活動を通じたボランティアリーダーの育成
標準運用手順、情報システム構築

●家族による緊急活動
・避難、生活の再建

●家族による復旧活動
・生活の再建

●残された復旧した農地での営農活動開始

●互助組織による緊急活動
・避難所の運営
・道あけ作業等

●互助組織による復旧活動
(可能であれば)

●区長と行政による
災害箇所図の作成
共助組織と情報の共有

●行政と区長で農地等復旧
のニーズ調査実施、
所有者と事業の仕分け

●災害査定
起債事業
市の単独事業実施

●地域内NPOがない場合は
復旧ボラ支援員を召集

●地域内NPOがある場合、
復旧ボラ 活動開始
・避難所の運営
・拠点集落でボラ受入

●復旧ボラ 活動開始

・水路の復旧
・小規模災害の農地復旧

●社会福祉協議会等による
ボランティアセンターの設置
→ 家屋・家財の復旧整理

●地域外NPOの支援受入
●社会福祉協議会の
センター機能継続

・小規模災害の農地
・地域行事支援
・未耕作地の代替管理
・補助事業後の復旧等

農地等復旧支援センター設置

連携

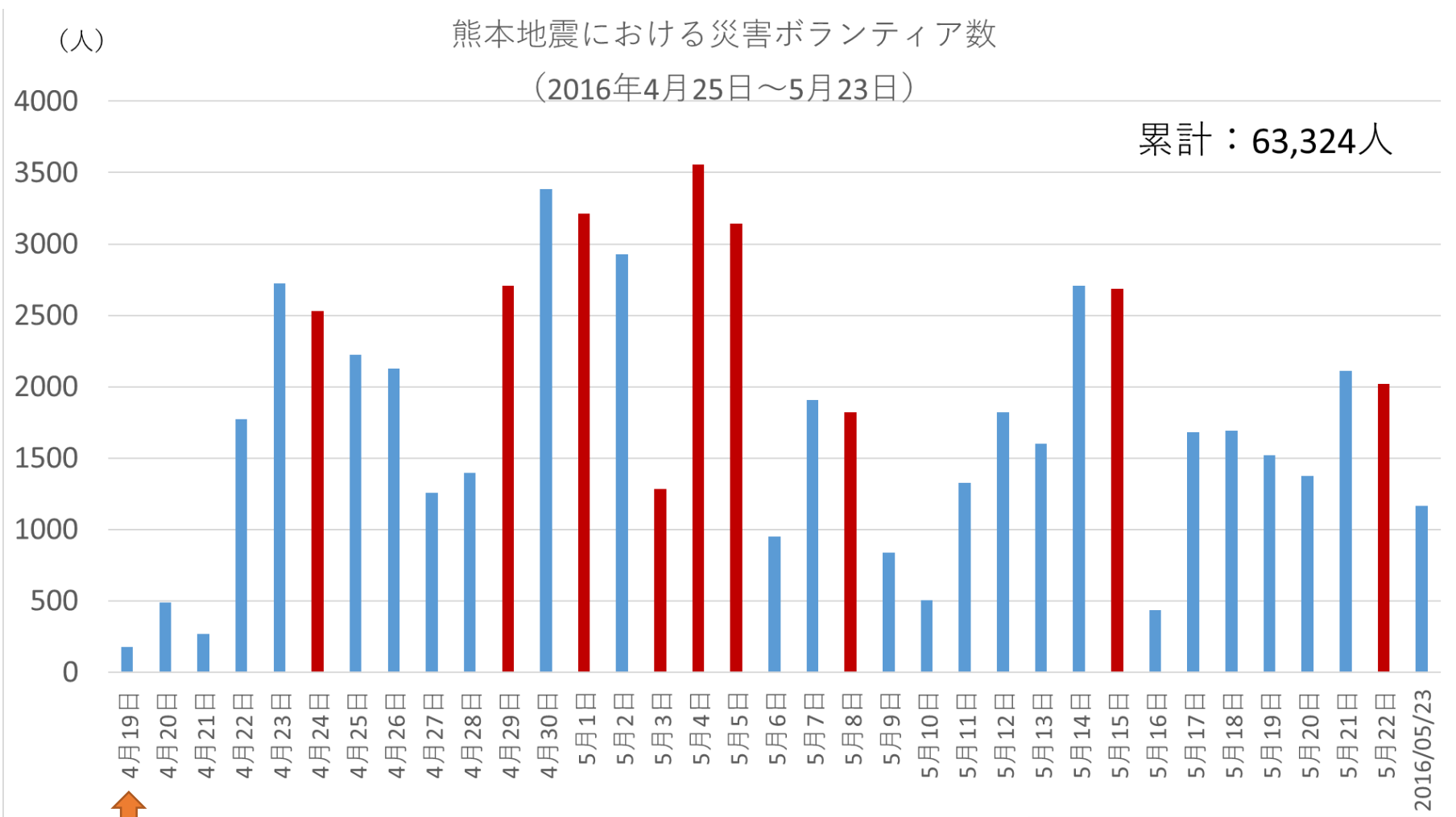
●補助事業実施

連携

熊本地震における災害ボランティア数

(2016年4月25日～5月23日)

累計：63,324人



災害3日後：災害ボランティアセンター設置

若干、設置時期遅れ

4月19日～：緊急対応～避難期（災害ユートピア期）

余震リスクがある等
ボランティア不足

1ヶ月半を経過し、災害ユートピア期が終了しつつある？



熊本県社会福祉協議会系災害ボランティアセンター分布図(2016年5月25日現在)

比較的、被害の少ない阿蘇市、菊池市、合志市から災害ボラセンを閉所し通常業務に復帰

4月 16日 1時25分 本震

緊急
対応
避難
期

【フェーズ1】
被災地社会の
成立期 17-19日

19日 「災害後の農地復旧のための共助支援の手引き」
のFacebook頁公開

23日 九州支部運営委員 個別視察

【フェーズ2】
災害
ユートピア期 24日 西原村災害ボランティアセンター開設

5月 3-5日 造園学会学術委員会調査

6日 西原村農業復興ボランティアセンター始動

9日 → 朝廣、現地打合せ

16日 → 被災自治体への農ボラニーズ調査

17日 → 農業ボランティア参加

【フェーズ3】
復旧・復興期





西原村 (写真:風当～大切畑地区)

課題

- 避難生活が続き、農作業に遅れ
- 水不足により、米、サトイモ生産が難
- 秋以降の換金作物のサツマイモが主生産物
→ 5月中の作付けが必要
- 草刈が間に合わない
- 家族だけでの日々の避難、生活が辛い



2016年5月9日 西原村農業復興ボランティアセンターと意見交換

設置経緯

- サツマイモ定植の緊急課題ニーズ把握
- 社協と切り離し、2名の民間ボラに運営依頼
- SNS (Facebook) で農ボラセンのページ作成
- はじめてみると、農家、ボラから評判が良い
～ 意見交換 ～
- 5月いっぱい、2日前事前予約、毎日実施
- 現在、新体制の検討中



駐車場に



受付、割振り、農家が向かえ



農家より作業方法の説明。マルチからの芽だし



農家と一緒に出荷準備作業。四方山話に花を

新聞記事

● 2016年05月25日、西日本新聞

農家救え、西原村に支援の拠点 募集呼び掛け、有志続々 [熊本県]

西原村に今月、熊本地震の被災農家を支援するボランティアセンターが発足し、全国から人材を募集している。村では損壊した自宅の片付けに追われて農作業に手が回らない農家も多い。春から夏にかけては田植えのほか、サツマイモ、トマトなど主要作物の作付けや収穫に入る大事な時期。被災地全体への広がりを期待する声も出ている。

西原村は4月16日に震度7を記録。家屋が倒壊するなどして5人の犠牲者も出た。直後から村のボランティアセンターには「家が片付かず、農作業に手が回らない」「作付け時期に間に合わない」との声が寄せられた。

災害時にボランティアセンターを運営する各地の社会福祉協議会は原則、農家への支援を受け付けていない。農作業を手伝うことが農家個人の利益につながり、社会奉仕の精神に反するとの見方があるからだ。

そのため西原村では、ボランティアに来ていた有志が中心となり、地元農協や社会福祉協議会と話し合い、農作業を専門にあっせんする「農業復興ボランティアセンター」を立ち上げた。5月6日に発足後、フェイスブックなど会員制交流サイト（SNS）で募集を呼び掛けたところ、これまでに500人以上が集まったという。

今月12日、立命館大学の学生ボランティア7人がサツマイモ畑で苗を植える作業に汗を流した。「農業をしたことがなかったので良い機会だ」「結構楽しいね」と話す姿に、支援を依頼した農家の曾我勝徳さん（67）は「地震当時は畝がめちゃくちゃな状態だった。秋の収穫はもうできないものだと思っていたので助かった」と安心した表情を見せた。

一方、同じく震度7が起きた益城町では、農業ボランティアの受け入れ態勢が整っていない。ダイコンを生産する矢島啓一さん（63）は自宅が倒壊。洗浄する機械も壊れ、町のボランティアセンターに収穫を手伝ってくれる人を求めたものの、後回しにされた。ダイコン畑は既に一面に白い花が咲き、「開花してしまえば出荷できなくなった証拠。なぜ益城には農家支援がないのか」と肩を落とした。県はトマト、スイカの生産量が全国トップ。2014年の農業産出額も3283億円と全国6位だ。大阪大の渥美公秀教授（共生行動論）は「農家の支援は被災地の復興にもつながる。農業ボランティアの活用にも柔軟な対応が求められる」としている。

【動機】

- 農作業に手が回らない
- 作付け時期に間に合わない

【体制】

- 社協は原則、農家支援は×
- 利益に通じ、社会奉仕に反する

【農業復興ボラセン立ち上げ】

6～25日で500名

【ボラ/農家】

良い機会、楽しい / 助かった

【益城町】

体制整わない。
農家：なぜ、益城町に農家支援がないのか？

【識者】

農家支援は復興につながる。
農業ボランティアにも柔軟な対応を

【農ボラ設置ニーズ調査】

九州農政局

→ 設置を支援する制度は、メニューは無い。

熊本県農林水産部むらづくり課

→ 補助事業以外は多面的交付金の柔軟運用で対応。
被災市町村のNPO設置は負担。今、する時期ではない。(2016年5月9日)

手引き送付・アンケート

→ 45被災市町村の農地復旧担当に郵送
熊本市、玉名市、氷川町から返信(ニーズ無し)
他、42市町村からは回答無し。(5月31日、×切)

【今後の課題】

- 梅雨明けを含め、半年～1年のニーズがあると想定
- 社協ボラが閉所する中、西原村をモデルに、他市町村へのアプローチを継続
- 制度が担保しない自治体、社協ではなく、NPOなどへ、アプローチ

熊本地震復興支援緊急集会

— 産官学の連携によるランドスケープ再生を通じた復興に向けて —



阿蘇地域の環境資源の再生に求められる視点 【人文環境・複合環境・自然環境】



京都府立大学大学院
ランドスケープ学研究室
福井 亘

塩井神社石鳥居倒壊と肥後赤牛の風景 撮影日：平成28年5月4日（水）

阿蘇地域における資源の例

人文環境

歴史・文化

寺社仏閣 阿蘇神社・国造神社など
道路や鉄道 南阿蘇鉄道など
古文書や歴史遺産

文化修復の問題
観光経済の問題

複合環境

農林業・里地里山

農景観（水田や畑地など）

酪農景観（肥後赤牛等放牧など）

観光・農業経済の問題
地域コミュニティ問題

自然環境

景観・風景

草千里などの草原景観 湧水・塩井社
阿蘇山・大観峰など

生態系の影響問題
景観変化と観光への問題

物理的による被害

地震による直接被害

心理的による被害

風評による被害

寺社仏閣の被害

地域の象徴でもある文化財の修復

地域の文化財は、**地域の歴史文化の証人**

先人の作り上げた大切なもの
時間をかけてでも修復する必要がある

早急な修復・復旧・・・



**修復の過程を見てもらうこと
修復に向けて、技術者の学ぶ場**

+ 修復作業，過程について，

子供たち次世代が学ぶ場として活用



阿蘇神社 平成28年5月4日撮影



道路や鉄道 南阿蘇鉄道などの被害

物理的修復による意義

ライフライン・生活／移動経路
車や鉄道からの車窓景観

古文書や歴史遺産の被害



南阿蘇鉄道第一白川橋梁（平成28年5月5日撮影）

1と2を合わせて

今までの歴史の継承に向けての意義

文化修復
観光経済
学習効果



西原村風手（かざて）県道28号線（平成28年5月5日撮影）

自然環境 景観・風景

阿蘇地域のダイナミックな景観
阿蘇山・大観峰など

震災による自然環境の変化

景観を受け入れていく
景観を修復させていく

直せないものと直せるもの
治せないものと治せるもの



阿蘇五岳 根子岳 天狗岩崩落（平成28年5月4日撮影）



西原村人工植林部 土砂崩れ（平成28年5月5日撮影）



阿蘇大橋 土砂崩れ（平成28年5月4日撮影）

生態系の影響問題
景観変化と観光への問題

農林への被害

水田や畑地の収益の問題
景観・風景の変化

酪農への被害

乳製品への収益影響
放牧地被害問題・肥後あか牛

草原への被害

草千里などの草原景観

観光農業・農業経済の問題



地区の財産の被害

湧水の枯水・減水
塩井社

湧水の増水
阿蘇やくいん原湧水群



塩井社水源（平成28年5月4日撮影）



阿蘇やくいん原湧水群（平成28年5月4日撮影）



長い歴史の中で
生活と集落が繋がっていた

【水による導線】

地域のコミュニティへの問題

さいごに

このたび熊本と大分の地震で被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。



ご清聴ありがとうございました



九州大学



F lab.

Landscape Ecology

Fujita Lab., Kyushu University
since 2010

【視点⑤】

ランドスケープ遺産の取り組みを踏まえた 産官学の連携による復興にむけて

九州大学大学院 藤田直子

(造園学会学術委員会委員)

(造園学会九州支部運営委員会委員)

(造園学会ランドスケープ遺産インベントリー委員会委員)

(九州支部ランドスケープ遺産委員会コアチーム)

熊本地震で特別紙面



夕刊

熊本日新聞

発行所 熊本日日新聞社 〒850-8508 熊本市中央区世安町172 電話代表 (096)361-3111 ©熊本日日新聞社2016年

2016 年(平成28年)

4月15日

金曜日

くまにち **タウンバザール**

お申し込みは携帯・PCから http://packet.kumanichi.com

※一部特約機種からはお申し込みできません。
広告会社、順日同通(支社、総・支局、販売店)の窓口でもお申し込みできます。

お問い合わせは
くまにち TEL.096-361-3354

タウンバケット メール info@packet.kumanichi.com



「天気」「一筆」は2面に移しました。スポーツ芸
休み、テレビ欄は7面に変更しました。

地震で崩れ落ちた熊本城天守閣の瓦＝15日午前6時43分、熊本市中央区



14日午後9時26分ごろ、益城町で震度7、熊本市などで震度6を観測した地震で、県警は15日午前、建物の倒壊などによる両市町の9人の死を確認したと発表した。県災害対策本部によると午前6時現在

県内の負傷者は少なくとも860人で、うち53人が重傷。505カ所の避難所に、約4万4400人が避難した。

【2、3、8面に関連記事】

熊本地震
9

M7.3 死者41人に



熊本地震「本震」

9万人超避難 不明



発行所
熊本地日新聞社
〒860-8506
熊本県中央区世安町172
代表 森(096)361-3111
© 熊本地日新聞社 2016年

4月17日
日曜日

熊本地震
特別紙面

3 総合 阿蘇、大分へ想定外の拡大
20 社会 地域の文化財 無残な姿に
23 社会 天井いきなり落下
2 社説 避難長期化に万全の策を
※まにちフナットに写真も

スポーツ 8~10面
ローカル 11面
休日在宅医 11面
くまもと12~13面
読者ひろば 14、15面

熊本地震

不明者搜索を再品

震度1以上800回切

超棟1万 家屋壊損



熊本地震で被災した県内の家屋が1万棟を超えることが22日、県のまとめで分かった。14日と16日に震度7を観測した益城町が5400棟を占めるが、被災家屋の調査が進んでいない市町村も多く、被害はさらに広がる見通しだ。南阿蘇村では不明者2人の捜索を再開。阿蘇市で震災関連死が1人増え、県内で計11人となった。天候が回復した被災地では、ボランティア活動が加速した。

県災害対策本部によると、県内の家屋被害(半壊1時半現在)は全壊1527棟、半壊1410棟、一部損壊2442棟など。土砂崩れが相次いだ南阿蘇村、阿蘇市などは「多数」「調査中」と回答しており、同本部は

マグニチュード(M)7.3を記録した16日未明の本震から1週間、14日の前震から9日が過ぎた。避難している方々、不自由で不安な生活をしている方々の疲れもピークなのではないか。

3日間だったが、夜は車中や避難所で寝泊まりした。顔が洗える、トイレができる、風呂に入れる。そのありがたみを初めて知った。非公式の避難場所ながら、勝手に立ち動き、丁寧に対応する県立大生には頭の下がる思いがした。

わが家に戻っても夜がくると落ち着かない。午前1時半の恐怖体験が体を固まらせる。余震で家が鳴るとびくりとしてそれからは眠れない。

阪神大震災並みという大地の揺れが、この熊本で起きるなんて考えてもいなかった。しかし実は「想定外」ではなかった。これまで熊日は、今度の大地震を引き起こした断層が私たちの足元にあることを何度も報じてきた。

新しくは「昨年5月の記事」。「熊本市想定 死者最多で117人 全半壊1万2千棟」という大見出しで伝えている。専門家の集まる熊本市防災会議での調査報告である。

調査は、南阿蘇村付近から八代海南部まで延びる布田川・日奈久断層を①南阿蘇村から宇土市付近にかけての北東部単独型②宇土市付近から八代海中部への中部単独型③宇土市付近から八代海南部への中部・南西部連動型1に分けた上で、午前5時、午後8時の発生など5つの条件で試算した。

その結果、死者最多だったのが③の連動型。午前5時発生時のケースで、M7.9、震度7とした。

今度の本震後、専門家は布田川と日奈久



山肌崩落、道路損壊… 復旧 見通し立たず



熊木などの山肌が崩れ落ち、赤茶けた土や岩が露出した杵島岳＝阿蘇市

表皮がはがれたような赤茶けた山肌、草原に生じた不自然な起伏。この季節、新緑に囲まれ美しいはずの阿蘇の山と草原は、痛々しく変貌していた。熊本地震で通行止めになっている阿蘇山上への登山道へ21日、視察した蒲島郁夫知事の一行に同行して入った。

山に通じる通称・阿蘇パノラマラインの登山口は阿蘇市から1本、南阿蘇村からは2本ある。いずれも、登山道沿いの土砂崩れや道路崩壊で通行できないままだ。阿蘇市側から上ると、杵島岳（1321m）の雑木林が根こそぎ倒れ、

阿蘇登山道風景一変



発行所
熊本日日新聞社
〒860-8506
熊本市中央区世安町172
代表 (096) 361-3111
© 熊本日日新聞社 2016年

5月23日
月曜日

熊本市職員ら1万人問診

心の健康調査へ

熊本市は、熊本地震への対応に奔走する市職員らを対象に、心の健康状態を把握するための問診調査を始めた。県内では発生から1カ月以上が過ぎた22日現在でも、91

蘇パノラマラインの登山口は阿蘇市から1本、南阿蘇村からは2本ある。いずれも、登山道沿いの土砂崩れや道路崩壊で通行できないままだ。阿蘇市側から上ると、杵島岳（1321m）の雑木林が根こそぎ倒れ、山に通じる通称・阿蘇パノラマラインの登山口は阿蘇市から1本、南阿蘇村からは2本ある。いずれも、登山道沿いの土砂崩れや道路崩壊で通行できないままだ。阿蘇市側から上ると、杵島岳（1321m）の雑木林が根こそぎ倒れ、

支えあ

面の亀裂の修復が「復旧の見通し」がない（県環境振興局）という。阿蘇市と並ぶ熊本の一大拠点だけに、

知事は「上空から見た阿蘇村と違い、姿、形がいてショック」と落とした。

登山道一帯には母熊を迎えたミヤマキリシランの濃いピンク色の花を

放たれた牛や馬は、自然威とともに、取りつた。「阿蘇の営み」を感じた。（岡本幸

行き届かなかったことが遅れたため、深刻を防ぐ。

市によると、調査員が定年退職後、雇用職員なども含め

緊急集会【視点⑤】

ランドスケープ遺産の取り組みを踏まえた
産官学の連携による復興にむけて

【ランドスケープ遺産】

▶ 日本造園学会が実施する造園や景観の目録作り

九州支部ではこの取り組みを

地域の風景の「宝さがし」

と捉え、活動してきた

取り組み 九州沖縄全県めぐりワークショップ

2013年度(一順目)



取り組み 九州沖縄全県めぐりワークショップ

2014年度(二順目)



取り組み

シンポジウム等の実施

造園学会全国大会

造園学会九州支部大会

ランドスケープ遺産を

まちづくりに活かすには

九州・沖縄の各県（8県）の学会員や造園関係者と
して、それぞれがランドスケープ遺産検討ワーク
ショップ（以下WS）を展開してきた結果、①ラ
ンドスケープ遺産の調査作業を通じてランドスケープ
とは何かを考えたい、②収集の成果をまちづくりに生
かす提案までを考えたい、③ランドスケープの研究や
実践の意味を社会にアピールする契機としたい、など
の意見が相次ぎました。

そこで本フォーラムでは、ランドスケープ遺産収集
の方法よりも、市民にとってのランドスケープ遺産の
意味を考究し、各地のまちづくりへの活かし方につ
いてアイデアを出し合うことに重点を置きます。なお進
行は、各県 WS の結果概要報告、パネラーからの話題
提供、参加者全員による意見交換の三段階で行います。

ランドスケープ遺産は、九州・沖縄の各地域の風
土や文化を如実に物語る場所や空間であり、その地域
の住民にとって「かけがえのない共有財産」と思える
か否かが、重要であると考えています。このような背
景から、本ミニフォーラムでは、ランドスケープ遺産
を、今後のまちづくりに活かすべき「資産」として捉
えていく視点を明確化し、地域住民にとっての「誇り」
に結びつけ、活かし方・守り方について議論を深めてい
きます。

開催日時・場所

2014年 5月25日（日）17:00 | 西日本短期大学
5月25日 -18:30 | 2号館

全体統括

小野良平氏（東京大学）

話題提供

高尾忠志氏（九州大学）

「五島列島久賀島の景観まちづくり」

城戸康利氏（太宰府市）

「太宰府市民遺産を通じたまちづくり」

正田実知彦氏（福岡県）

「庭園や公園などの遺産を活かすには」

司会進行・報告

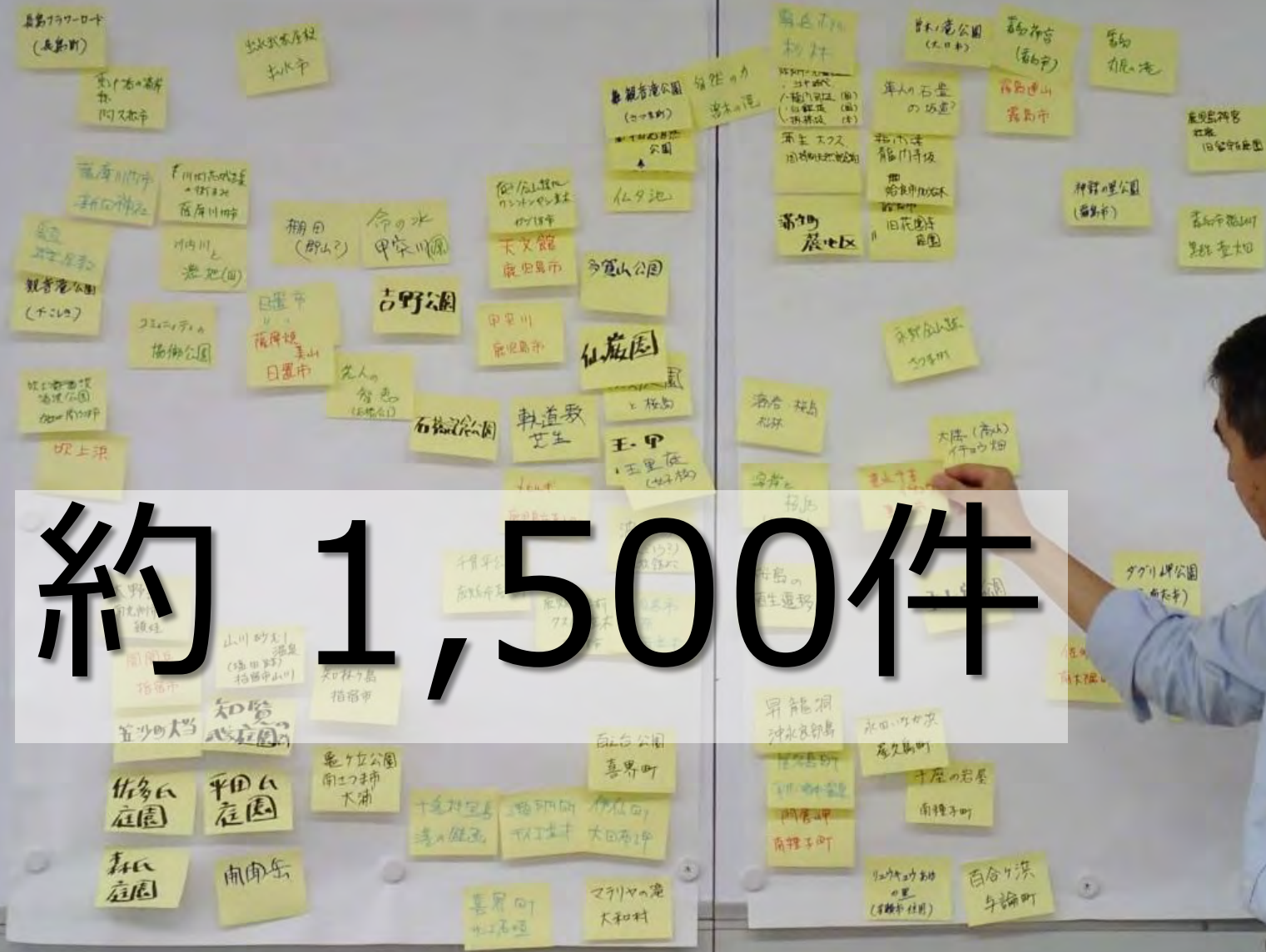
藤田直子氏（九州大学）

「九州・沖縄のランドスケープ遺産収集の経過」

徳永哲氏（株式会社環境設計研究所）



約 1,500件



取り組み
写真集の発刊

LANDSCAPE KYUSHU OKINAWA

- ランドスケープ九州沖縄 -

記念誌「ランドスケープ九州沖縄」刊行間近!!

● 誌面構成

巻頭 - はじめに
本編 - 1. 美しき天然

● 趣旨

日本造園学会九州支部では、「九州・沖縄のランドスケープ遺産」の収集に取り組んでいます。これまで、後世へ継承していきたい各県ごとの

● 誌面構成

巻 頭 - はじめに

本 編 - 1. 美しき天然

2. 地域の暮らし

3. 思いを込めた造園

4. 祈りの文化

5. 物語の証し

6. もう一つの日常

7. まちづくりへ

コラム - 風景を作った賢人たち

音の風景アーカイブ

世界・全国レベルで価値づけされてきた遺産

九州・沖縄の位置(地理・地勢)・自然

巻 末 - ランドスケープ遺産の取り組みについて

ランドスケープ遺産インベントリーのねらい

九州・沖縄の掲載物件リスト

おわりに

緊急集会【視点⑤】

ランドスケープ遺産の取り組みを踏まえた
産官学の連携による復興にむけて

【実施案】

熊本地震・ランドスケープ遺産





緊急集会【視点⑤】

ランドスケープ遺産の取り組みを踏まえた
産官学の連携による復興にむけて

【実施案】

熊本地震・ランドスケープ遺産



緊急集会【視点⑤】

ランドスケープ遺産の取り組みを踏まえた
産官学の連携による復興にむけて

【実施案】

造園業が有する自然災害
復旧支援活動ポテンシャル調査



緊急集会【視点⑤】

ランドスケープ遺産の取り組みを踏まえた
産官学の連携による復興にむけて

【実施案】

災害初期における自然公園の地域貢献
-実態把握・実施体制-





熊本地震への取り組み
今後10年間

阪神淡路・東日本
蓄積の共有

南海トラフ巨大地震
「次」のために